

六條學
報改題

佛敎大學論叢

第四百
十二號

大正十一年二月發行

存覺上人之人之研究號

目次

肖像……………常樂台藏

六要鈔古本……………本派本願寺藏

本欄

存覺上人とその時代……………三浦周行

存覺上人の修學……………禿氏祐祥

存覺上人の教義……………梅原眞隆

存覺上人の神祇觀……………杉紫朗

本典流傳史上に於ける存覺上人の地位……………中井玄道

常樂台主老納一期記の研究……………妻木直良

存覺上人袖日記の研究……………鷺尾教導

雜纂

存覺上人年譜……………著書解題……………識語集……………舊蹟寺院

菊版 頁數約二百頁 定價金 壹圓

發行所 京都市都六條 佛敎大學論叢社 振替 大阪 二八一四七番

山西教義研究

第壹年 第壹卷

大正拾壹年 貳月 發行

▲ 内容要目 ▼

□ 淨橋寺梵鐘之銘 (派祖西山國師真蹟)

—— 本 欄 ——

□ 正因正行の論

三浦貫道

□ 日本淨土教義史

井ノ口泰温

—— 參 考 欄 ——

□ 淨土安心抄を讀む

一行

—— 西山疏抄尋覽 ——

□ 觀經疏大意

西山善峯寺證空記

▲ 規定 ▼ 本會は社會の所

有方面よりの入會を歓迎す、

◆ 入會せんと欲する人は會費

(年額四圓五拾錢)を添へて發

行所へ申込のこと

◆ 會員は雜誌の配付を受け並

に論文を提出し、諸種の會合

に出席して、質疑をなすこと

を得

◆ 雜誌は年三四(二、五、九、

月)發行す

◆ 一部購讀希望者の誌代は隨

宜申し受候

發 行 所

京都府乙訓郡

乙訓村字粟生

西山専門學校内

西山教義研究會

振替 大阪五九七一〇番

天台宗叢書

▲年四回發行▼
 ▲洋裝三百頁▼
 ▲會員にのみ實費にて頒布す▼
 ▲會員は端書にて申込まれたし▼

日本文化の搖籃
 天台學の體系

新刊
 第二卷

圓戒膚談

園城寺 顯道敬光述

著者は鎌川末期に於ける天台宗隨一の學匠であつて、特に圓頓戒に卓抜の識見を所有せられた方である。當時山家大師流の天台が、支那四明天台の爲に壓倒せられ、從つて精神的大乘圓頓の戒法は光を失して形式的律法の擡頭して居つた頃である。然るに著者斷乎として山家の復興、大戒の振作を圖られた。然かも師の爛熟せる圓戒思想は、此の膚談に卷に盡されてをると云つても過言ではない。國民思想史と密接なる關係を有する、圓頓戒を知らんと欲するものは、必ず座右に一本を備へねばならない。切に此の書を江湖に薦むる次第である。

【附錄】圓戒膚談條……末廣昭啓書
 【書費】金參圓五拾錢 送料共【】

(1) 既刊、安然撰集一
 教時問答

五大院安然述
 實費金參圓

▲續刊豫定書▼ 一 安然撰集第二 一 普通廣釋 一 教時問答 一 即身成佛義(密) 一 即身成佛義(顯) 一 瑜祇經疏	安然述
一 安然撰集第三 一 菩提心義鈔	安然述
一 慈覺大師撰集第一 一 顯揚大戒論	圓仁述
一 天台直雜	順燿述
一 宗大傳口傳抄	等海述
一 宗祖撰述末跋錄	本會編

電話掛號
 小石川
 三三三
 東京
 一八五〇

天台宗大學出版部

發行所
 東京市本郷區
 駒込
 本町

東京帝國大學司書官
兼教授 文學博士
東京帝國大學 司書

和田萬吉序

藤原猶雪著

▲菊版布裝 天金美本
△寫真版十六枚挿入
▲定價 金貳圓也
△着金順限特價 一圓半
(錢五十料送)

親鸞聖人真像の研究

□ 本書は親鸞聖人門下の地理的分布を權説して其郷土史料より
□ 聖人の影像並に墓標の原型を考察せるものである

發行所

東京市神田區
錦町一の十九

振替口座番號
東京三三六一

森出版部

電話 神田二二九二